

環境経営を進める企業の皆様へ SDGs活用のススメ

昨今、問題となっている気候変動や、プラスチックによる海洋汚染等に代表される多くの社会課題は、企業経営にとって無視できない段階に入っています。いち早く、世界の課題とニーズに気づくことは、ビジネスチャンスを生みます。一方で、知らないでいることは今後大きなリスクとなります。世界の課題と解決すべき目標を示したSDGsを知り、企業経営に活用していきましょう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs(エスディーズ)とは、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)の略称で、17の目標と169のターゲットからできています。これは、2015年9月に国連で193の全ての加盟国が全会一致で採択したもので、貧困の根絶や格差の解消、経済活動と環境の両立など、現在世界が抱える地球規模の課題を解決するために、2030年までに達成したい目標です。上のイラストは、17の目標を示した世界共通のロゴマークです。

企業がSDGsに取り組む4つのメリット

生存戦略になる

SDGsに取り組んでいることが、今後取引条件になってくる可能性があります。また、社会のニーズとマッチした持続可能な経営を行うための戦略として活用できます。

新たな事業機会の創出

SDGsに取り組むことにより、新しい取引先や事業パートナーの獲得につながり、イノベーションを生み出すきっかけになります。

企業イメージの向上につながる

SDGsの取り組みを発信していくと、企業の信用性が高まり、人材不足の中でも、意欲的で多様な人材の確保につながります。

リスク管理に役立つ

SDGsは、今の社会が必要とするニーズが詰まっています。これらの課題に対応していることで、経営リスクの回避や地域での信頼獲得につながります。

SDGs最初の一步

①SDGsを知る

ネットや書籍を通していろいろなところから情報を入手することができます。いくつかはこのリーフレットでも紹介していますので、まずはSDGsの目標とターゲットがどのようなものかを知ることから始めてみましょう。

②自社の業務と結び付けてみる

自社の業務を棚卸し、各々の事業がSDGsのどの目標に貢献しているかなど、事業活動とSDGsの目標を結び付けてみましょう。

③自社のカギとなる目標から取り組む

企業には、それぞれ創業の精神や社訓など基本となる考えがあります。それらの精神と社会のニーズを意識し、どの目標に重点をおいて取り組むべきかを検討します。17の目標は互いに関連しており、一つの目標への取り組みが進むと他の目標とのつながりにも気づくことができます。

※SDGsの取り組みは、社内外へ積極的に情報を発信していきましょう。そのためには、取り組んだ経過や結果を記録しておくことが重要です。

先進企業からのメッセージ

H30.11.28 第2回SDGsと企業の環境経営連続講座 講演より

コマニー株式会社(石川県小松市)

パーティーのトップメーカー

2018年4月より取り組み開始。SDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」をキーとして「コマニーSDGs∞(メビウス)モデル」を策定し推進。取り組み始めて、新たなビジネスへの挑戦機会の増加、意思決定のスピード化、今まででは考えられなかった会社とのパートナーシップが取れるようになった。



ユニー株式会社(名古屋市)

総合小売業のチェーンストア

100年後の子ども達のためにSDGsに取り組む。2008年から取り組んでいるエコ・ファーストの約束をSDGsに結びつけた。食品廃棄の削減とリサイクルの推進、地球温暖化防止などのエコライフスタイルを提案し推進する。消費者と一緒に、レジ袋を削減して、地域の廃棄物を削減し、さらにコストも削減できた。社員それぞれが、自分の仕事に関わるSDGs目標をネームホルダーに付けて、SDGsを「自分ごと」にしている。



株式会社マルワ(名古屋市)

名古屋の印刷屋さん。

情報発信が紙媒体からSNSへ移り、ビジネス環境は激変。印刷業は5年後さえ予測不可能。その中で、非財務情報が企業価値の尺度になり始めたことに着目し、SDGsに取り組み始める。取り組みにより企業イメージが向上するとともに、生存戦略となった。また、新たな事業機会の創出にもつながっている。

取り組みは結果として売上アップにつながったが、それは結果論で、必ずしも「儲け」につながるとは限らない。



株式会社マルワ

中小企業こそSDGsの活用を

H30.10.30 第1回SDGsと企業の環境経営連続講座 SDGsパートナーズ 田瀬和夫氏の講演より

中小企業がSDGsに取り組む意味はいくつもあります。
まず、取り組む企業にとっては、下記の3点が挙げられます。

- ①SDGsに取り組もうとした時、経営理念と社会的意義を考え直すことになるので、ぶれない経営の軸足ができる。
- ②世界のビジネスの潮流に乗れる。
- ③SDGsを活用し、情報発信を行うことによって、企業をブランディングすることができ、いい人材の確保にもつながる。

また、地域への貢献という視点から見ると

- ①中小企業にしかできないイノベーションがある。
- ②中小企業の活躍は、地場の経済を通して地域の発展に貢献できる。
- ③経営者と社員の距離が近く、地場の人材が育成できる。

といったことがあげられます。

中小企業がSDGsに取り組むことは、企業自身と地域の両方にとって大きな意味があります。中小企業がSDGsに取り組まない手はありません。



田瀬 和夫氏

<参考情報>

- ・SDGsを活用した環境経営促進講座報告書 2019(四日市市)
平成30年度に本市が実施した3回の連続講座の報告書
- ・(一社)日本経済団体連合会 SDGs特設サイト
SDGsに対する企業の取り組み事例や、経団連が目指す未来社会「Society 5.0」の説明等掲載。
- ・すべての企業が持続的に発展するために
ー持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイドー 2018(環境省)
- ・国際連合広報センターHP
SDGsの詳しい説明やロゴマークの掲載サイト
- ・国連 世界の未来を変えるための17の目標 SDGs 2030年までのゴール 2017(日能研)
中学入試向けにSDGsをわかりやすく解説した本であるが、大人でも十分に参考になる。

発行：四日市市環境部環境保全課

電話番号：059-354-8188 FAX：059-354-4412 メール：kankyuhozen@city.yokkaichi.mie.jp

制作協力：環境教育ネクストステップ研究会 HP：<http://ee-nextstep.com/index.html>